



教師に求められる力とは！

予測困難な次代を生き抜くと共に多様な他者と協働的に新たなものを創り出すための「資質・能力」が求められています。そのために学校では、「主体的・対話的で深い学び」による授業改善、「カリキュラム・マネジメント」や「開かれた教育課程」などを目指した授業実践を含む様々な教育活動が計画されていることでしょうか。また、新型コロナウイルスがまん延し、子ども達の学びの保障に取り組みむべく、GIGAスクール構想が実現され、ICT活用の充実に向けた研究が今年度も推進される事と思えます。このような変化の激しい中で、教師に求められる力とは何か考えてみました。

一つ目に、初任者研修や中堅教諭等資質向上研修の中でも述べたのですが、学校は組織体としてあるので、教育活動を展開していく上で、重要なことは、全教師が学校教育目標を意識することです。もう少し言えば、授業を含め、学校の様々な教育活動を実践していくのは、学校教育目標の実現に向けての取り組みということになります。目標が共有・理解できていなければ、学校教育目標に近づくことすらできません。つまり、学校という船を目的地に進めようとしても、漕ぎ手である教師が、各々で思いのままに舵を動かしても進まないと言うことです。そこで教師に求められる力は、学校教育目標の理解のもと、自校の子どもの特性や実態等を踏まえ、次代に必要な子ども達の資質・能力を具現化し、学校としてベクトルを揃えた教育活動の実施ができる力と考えます。

二つ目に、授業づくりでは、三つの柱を意識した取り組みが教師に求められています。「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性等』の涵養」です。この三つの柱は、様々な教育活動を通して育成されるものと捉えることもできますが、もっと焦点化して、日々の授業の中で三つの柱を意識した取り組みが求められているとも捉えられます。三つの柱を意識し作成した各教科等の年間指導計画を実施する中で、PDCAを機能させ、子どもに身に付けさせたい資質・能力をより明確にした授業づくりに取り組み力が求められると考えます。

最後に「カリキュラム・マネジメント」です。総則の中に「教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていく」「教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育の質の向上を図っていくこと」があり、教育課程全体においてその実現が求められています。教師の中には、カリキュラム・マネジメントは、校長、教頭で行うものと考えている方も少なくないのではないのでしょうか。先に述べたように、教師は組織の一員であるので「学校カリキュラム・マネジメント」は、教師一人一人が「学級・教科等」カリキュラム・マネジメント「まで下ろして取り組むことができる力ではないでしょうか。他にもいろいろなあるかと思いますが、これらの力が発揮できれば、学校の教育活動の質の向上に繋がるものと考えます。

5月 研究所事業予定

10(火)	中堅教諭等資質向上研修③	中央公民館
11(水)	研究主任研修会	オンライン
12(木)	初任者研修②	真和志庁舎
13(金)	情報教育研修会	オンライン
17(火)	教職3年目研修①	オンライン
19(木)	教職5年経験者研修	オンライン
24(火)	特別活動担当者研修会	中央公民館
26(木)	初任者研修③	オンデマンド
30(月)	ICT教育推進部会(発足式)	研究所会議室

118期教育研究員

新垣 研究員(幼児教育)
神崎 研究員(特別活動)
國場 研究員(ICT教育)

教育研究員は、各自の課題と向き合い、テーマを立て研究を進めているところです。また、研究以外にも半年で12回の所内講座を実施し、資質能力の向上につとめています。

9(月)	中間検討会 I
31(火)	指導案検討会



4/13 講師:吉田文子氏
講座「コミュニケーションスキル」の様子

ICTを活用した授業実践例

【那覇市ICT教育推進部会実践事例サイト】では、現在72の実践事例を紹介しています。授業活用でのヒントが見つかると思います。

また、他校へ紹介できる事例も募集しております。是非、教育研究所までご連絡ください。



研究所図書室の紹介

那覇市立教育研究所の図書室には毎月10冊程度の新刊が入ってきます。図書搬送システムを利用した貸し出しもできます。詳しくは学校図書司書へ。

研究所蔵書の一部は、
下記 URL または右記 QR コードから確認ができます。
<https://booklog.jp/users/nahaken2016>

